(別紙)

成果の説明書

(氏名)　阿久津　由佳	(学部)　経済学部

1　重要事項

(1)　教育

最も重要と考え力を注いだのは、英語教育の改善に向けての取り組みである。経済学部に属する本学の学生のニーズに適合しかつ魅力的な英語の授業、学習環境とは何かを明らかにし、それをできる限り実行し、また将来的に現実化できるように努力してきた。

具体的には、

①社会で必要とされている英語力に関するデータ、文献等の収集

②TOEIC スコア等に関するデータの収集

③TOEIC 問題の傾向の分析

＊特に頻繁に使用される語彙の収集

＊リスニング問題のトピックの傾向および会話表現の分析

＊リーディング問題のトピックの傾向、文法問題の傾向に関する分析　等

④「学生の求める英語授業」とは何かについての聞き取りサンプル調査

⑤学生が能動的に学習できる英語授業の形態についての実験的取り組み

⑥PC の効果的利用により学生個々人の習熟度、ニーズ等に合わせやすい授業形態についての実験的取り組み

などがあげられる。

これらの取り組みおよびその成果は、まず必修英語科目(Current English 3/4)および総合科目(Business Communication Skills A/C)において実践、利用し、効果をあげていると考える。学生からの直接の聞き取りからその効果を把握しているほか、授業評価でも、いずれの科目でも高い評価となっており、コメントでも、ニーズへの対応、学習態度（積極的に学べた等）の改善、および TOEIC への対応を評価するもの等が見られた。

また、現在進行中の英語カリキュラム改革においても、その成果を活かせると考えている。

(2)　研究

英語の語用論的要素をどのように学校英語に取り入れるかについての研究を進めている。2012 年度は、特にその現状についての調査(聞き取り、アンケート等)を英語担当教員や学生を対象に行った。現在は、その資料の整理とデータ化を進めている状況である。これまでに、語用論的側面の高校授業への導入が非常に少ないこと、教員自身の語用論的側面の知識や学習経験が少ないこと、その結果として、当該要素への教育の意識も薄いことなどがわかってきている。また、多くの中級レベルの学生が『教わった記憶があまりない』と回答するなど、学習者

が語用論的側面を意識して学習した経験が乏しいことも明らかになっている。来年度は、これらのデータをまとめて発表したい。
また、International Conference on Education 2012 に参加し、最新の外国語教育の動向についての知識を深めた。

2　その他の事項

・英語カリキュラムの計画策定及び実行に関して、英語小部会のメンバーとして会合に参加し、カリキュラムの検討を行っている。

・国際交流委員会委員として、アメリカおよびオーストラリアへの学生派遣担当となり、留学生説明会への参加および説明を行った。また学生への個別留学相談への対応などを行ってきた。